

5月講話会 報告 一般社団法人すてきな大分を伝える会

皆さんこんにちは。先月5月の講話会は、『久留島武彦の童話の世界』というタイトルで、元先哲史料館館長の大津祐司先生にお話を伺いました。今年は、久留島武彦の生誕150年の年に当たり、改めて久留島武彦の功績、足跡を学び、多くの発見がございました。



驚いたのですが、当日、会場に小学校5年生と6年生の時に久留島武彦の口演を直接聞かれたという参加者（写真右下）が出席されていました。講話の後でご本人より、「久留島武彦は、300人の生徒を前に身振り手振りで、『ぞうさん』の話をしてくれました。大きなはっきりした声で話された先生の顔が今も残っています。」と会場の皆さんにその時の感動を伝えてくださいました。



久留島武彦の話を直接聞かれた渡辺忠義様（左端）と大津祐司先生、青井

講話で印象深く残りました久留島武彦の魅力をご報告いたします。

①玖珠町で生まれ、大分中学（現上野丘高等学校）在学の時、英語教師ウェンライト（W）先生との出会いがありました。久留島はW先生の寄宿舎に泊まり込み、英語だけでなく日常生活からもWご夫妻から多くを学んだようです。先生が関西学院に転勤すると、自らも関西学院に入学して、学んだ程でした。久留島は、キリスト教の洗礼を受け、日曜学校で子供たちへ教える喜びを体験していきます。このことは後の久留島の童話への関心を深め口演活動の人生を歩む基礎になったのでした。

②童話作家への夢 20歳の時、徴兵検査があり虚弱体質であったことから不合格になるかと期待していたところ合格となり、近衛師団に入隊となりました。しかし、幸いにも師団本部の勤務となり、時間に余裕があったことから、ここで童話を創作します。作品『近衛新兵』が人気となり雑誌『少年世界』で連載となりました。ペンネームを“近衛新兵”をもじり、尾上新兵衛（オノエンペイ）としたところなどは、久留島の何ともユーモラスな性格が伝わってきます。

③児童文化活動へ積極的に取り組む

「童話は、子供の発育段階に従って摂り入れられる主食である」とその効用を力説し、幼稚園を創る他、童話集の出版や「お伽俱楽部」を創り、全国各地に普及させていきました。また、久留島は、組織作りに併せ、中心となる人物の育成にも力を入れてきました。

大分県では、別府お伽俱楽部が、明治43年（武彦33歳）に発足いたしました。学校と家庭との間での子供の為に社会教育機関となり、良き娯楽の場所を提供することを設立の趣旨にして、あくまでも子供たちを主人公にした活動を進めて行きました。

④久留島武彦の童話口演活動への願い

1) 「子供の膝の前の友達」がほしい お伽話を語れる人が少ないことを嘆かれ
 「自分は今切実に、子供の膝の前の友達がほしいと思っている。…… 目前の子供等が、膝の前に座って、彼らの索（もと）むる一人の内に入れられたいのが願いである。……」（『お伽小槌』私言 大正6年7月）

この願いがあり、40歳前後からは、口演活動に力をいれていました。晩年85歳で飛騨高山の山間部まで子供達の為に山道を歩き訪ねて行かれた姿は、



最後は背負われて口演会場へ
(久留島武彦新聞記事資料集より)

この熱い思いがあったからなのでしょうか。

2) 家庭の大切さを教える 「母親教育十箇条」

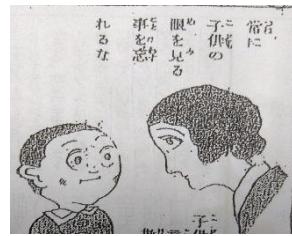
全国口演活動を精力的に進めるなかで、そのなかには不遇な子供達も多く、久留島は、家庭教育の大切さを痛いほど感じたのでした。大津先生は、子供に一番身近なお母さん方へ願われた久留島武彦の言葉を、最後に紹介くださいました。母親だけではなく父親としても大切な箴言として受け止め、活かしたいものです。(青井勝久記)

《久留島武彦 母親 教育十箇条 》

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ①常に子供の眼を見るることを忘れるな | ②子供の言葉に敬意を払え |
| ③話と報告をきく時間を与えよ | ④睡眠と寝室とに細心の注意を払え |
| ⑤家庭に共通共楽の遊戯をもて | ⑥遊びと友達を吟味せよ |
| ⑦如何なる時にも、疑いの眼でもって子供に向かうな | ⑧食卓の指導に真面目なれ |
| ⑨戸外より還りたる時は、第一の歓迎者たれ | ⑩終始理解ある同情者たれ |



ホルトホール大分で



『婦人世界』26巻3号 昭和6年3月1日より

§ § § § § § § § § § § § § § § § § § § § §

6月・7月 講話会お知らせ

6月29日(土)14時より開会 『若人の夢づくりと大分の魅力』

講師:大分市生涯学習指導員、家庭と未来研究所 所長 松 本 雄 司 氏

於:ホルトホール大分 403会議室 参加費 500円/人

7月 27日(土)14時より開会 『日・韓芸術文化交流の30年の活動と大分の若者に期待すること』

講師:NPO 法人 日・韓芸術文化交流会 大分県韓国文化・情報センター

理事長 印 成 銀 氏

於:ホルトホール大分 403会議室 参加費 500円/人

《お問い合わせ先》一般社団法人すてきな大分を伝える会 青井勝久 TEL 080-3865-7104

E-mail k-aoi1005@outlook.jp HP <https://nice-oita.webnode.jp/>

以上